

湖畔

北海道立大沼学園

〒041-1355

北海道亀田郡七飯町字西大沼8番地

TEL 0138-67-2014

FAX 0138-67-2032

hofuku.onumagakuen1@pref.hokkaido.lg.jp

<http://www.pref.hokkaido.lg.jp/hf/ong/>

園長 三浦 辰也

無田甫田維莠経驕々矣

1914年(大正3年)、家庭学校 留岡幸助(51歳)は「北海道農場」の創設を迎え、江原素六貴族院議員(1906年 家庭学校理事)を訪ねた。標題は留岡が饒語として賜ったものである。「北海道少年教護事業沿革史」によれば、「明治三十三年(1900年)我が国は感化法の施行をみたのであるが、本道には当時施行尚早の議あり、之に遅るしこと八年、明治四一年その施行を見るに至った。四月直ちに「北海道廳立感化院」を札幌市郊外藻岩山山麓に設置したのが本道における少年教護事業の濫觴である」以来6年間は道廳警察部の主管に属し、警察部長が代々の院長職を兼ねたのである。大正7年(1918年)に「北海道廳立感化院」を廃して「北海道廳立札幌学院」と改めた。

1912年(明治45年)7月、函館市の有志(横山軫ら)は私設事業として感化院の設立を策し、司法官、一般官民の協力を求め基督教主義の薫化を行い、財団法人函館訓育院の設立となったのである。1924年(大正13年)訓育院は設備の一切を道廳に移管し、名称を「北海道廳立大沼学院」に改め、翌年「北海道廳立札幌学院」と合併したのである。

創設時の大沼学院は、在籍児童23名、教諭兼院長心得1名、書記、保母、雇(公務補?)各1名。合併した札幌学院より福原奎三郎が院長として就任し、教諭4名、保母2名、保母心得2名、4月に生徒39名、10月に14名の学籍を移した。設備は校舎1棟、家族舎4棟、炊事場1棟、建坪合計563坪、その他修繕を加えたもの143坪、生徒100名を収容する設備となる。工費は68,900圓と記録されている。翌年、徽章が「鈴蘭に雪」と定められ、今日の分校名称の「鈴蘭谷分校」へと受け継がれることとなる。

「1929年(昭和4年)6月17日、駒ヶ岳爆発(噴火)。翌18日には院長、職員、生徒20名が留の澤にて埋没道理の発掘、通行人救助を行い、救護の先鞭となりし」「1932年(昭和7年)普通教育修行の爲め、在院生中成績優秀なもの三名、村小学校に通学委託をなし、尋常科の過程を修了せし」「1934年(昭和9年)全国スキー選手権地方豫選大会に於いて本院生徒入賞。文部省健奨カップを受く」これらは「訓育」の項目にまとめられている。時代背景を鑑みても、混迷を極めた子どもを取り巻く不遇な環境を熱情をもって施設の必要を説き、興した方達。「地域と施設」の境もなく、「ここに生きる者」として極々当たり前必死に生きた日本人の姿が垣間見える。今日、二万株の花苗を育て地域などに配り、湖畔清掃、祭りの参加、学校教育の導入、実科生への支援などに受け継がれている。創設時より家族舎四棟(芝蘭・芳泉・蛍雪・晩翠)を運営の柱とし星霜を重ね今日に至る。平成の終わりに、夫婦寮(家族舎)と交代寮の併立を以て運営の要とすることとした。

「無田甫田維莠経驕々矣」(ほでんをたつくるなかれ それ ゆう きょうきょうたり)4月からは先人が開墾した田を礎に、「手に適うだけの仕事をすればよい」とし、訓戒として心に刻むこととする。もって、新たな時代に適う道立施設の田に鍬を入れる。

学園祭～彩り～それぞれの色をみんなの舞台にー 福祉専門員 折出 茂樹

学園祭は、児童にとって、舞台発表での緊張との戦いや、皆で成し遂げる満足感を確かに心に刻む経験となりました。私は、丁度20年ぶりに参加させてもらいましたが、しっかり根付いている先人達の指導が引き継がれ結集された一大イベントに感慨深いものがありました。

分校の先生の指導によるオープニングセレモニー・合唱は心染み入るものがあり、各クラス発表は個性あふれる発表となり、トーンチャイムの音色に会場全体が包まれました。

クラブ発表は、和太鼓クラブの「郷の音」が心を打ち、サプライズによる「祭（北島三郎）」は圧巻でした。「郷の音」はその後の活動を広げ、地域の皆様との交流を広げています。劇クラブの「うらしまたろう」は現代風にアレンジし「USA」の踊りを披露、亀役のユニークな演技に笑いを誘いました。また、舞台発表のみならず、一人一人が参加し職員・児童全員で成し遂げた一体感を糧として学園生活に生かし、また一年後の発表につなげたいと思います。

これからも応援・支援を宜しくお願いします。

僕は今回の学園祭が初めての経験だったので、いろいろと不安等もあった中、ちょっとした楽しみもありました。そんな中、いざ学園祭に参加してみると思った以上に不安はなく、出店などでいろいろと楽しめました。特にストラックアウトが楽しかったです。自分が思っていた以上に的に当たりました。そして、最後の最後で的に当たる事ができたので、とても嬉しく楽しかったです。

今回の学園祭は自分なりに楽しく終えることができました。

中一 Tくん

学園祭は、みんなが協力して一つのものに取り組むことができました。そして僕は、学園祭でバンド演奏と劇をやりました。バンドでは、キーボード演奏を担当の先生とやりました。そして劇では、『うらしまたろう』でカメの役をやりました。どちらも上手くいったと思います。

昼食では、あまり時間が無く食券を4枚残してしまいました。来年は、なるべく全部の券を使い切れるようにしたいと思います。

中二 Sくん



大沼小学校公演

福祉専門員 熊本 淳

「ちゃんちゃちゃちゃちゃちゃ、ちゃんちゃん」

あの誰もが知っている笑点のテーマが会場に流れ、司会の先生が年少児童の観客席から意を決して笑点風に公演がスタートしました。(写真参照 着席時は目立ち、違和感しかありません)

11月20日(火)、七飯町立大沼小学校体育館にて文化系クラブの公演活動が行われました。今年の劇クラブは「うらしまたろう」、和太鼓クラブが「郷の音、和太鼓体験」に挑戦しました。

今回の『沼小公演』では、昨年度からよりパワーアップされた取り組みが引き続き実施されました。例年通り、大沼保育園の年長児と職員の方々の観覧と、今回も大沼小学校の呼びかけにより、大沼小学校の保護者の方々、そして学校評議員や民生委員といった学校・地域関係者の皆様にも会場まで足を運んでいただきました。そして昨年に引き続き、「2つの紹介」も行われました。1つ目は、スライドで学園の活動が紹介されました。2つ目は、演目紹介のリーフレットが配布され、劇・和太鼓の演目における経緯や意気込みが紹介されました。また、演目発表のあとに、大沼小学校の低学年・高学年に分かれてお礼の気持ちを込めた合唱が行われ、和やかであたたかな雰囲気になりました。劇クラブは、「うらしまたろう」の原作を基に笑いや歌に踊りといったアレンジを加え、正に現代版うらしまたろうとなりました。和太鼓クラブは、「郷の音」に加え、和太鼓体験も実施され、その場で選ばれた3名の方に大太鼓と宮太鼓を打ってもらい、「郷の音」のワンフレーズをメンバーと共に演奏しました。また、サプライズで「まつり」を演奏し、「大沼の三郎」はか細い声で熱唱しました。

劇クラブ・和太鼓クラブ、そしてスポットライトなど裏方で活躍する実科生にとって、発表の機会は学園祭と『沼小公演』の2回のみです。昨年も書かせていただきましたが、慣れた学園を離れて、大沼小学校へ出向いて発表させていただくことは貴重な経験となります。学園祭から発表する場所や見てくださる方々が変わるなど、状況が変化しても与えられた役割に最後まで取り組むことができるか、ある種の試練になりうると思います。そして、毎日の練習による力だけではなく、発表における観客の皆様の反応や大きな拍手のような、人と人との輪が作り出す「環境」の力が、このような経験の効果を高めていると感じます。今後も、このような機会と新たな取り組みが継続できることを願いつつ、改めて大沼小学校を始め、大沼保育園の皆さま、保護者・地域関係者の方々に心から感謝申し上げます。



今回の大沼小学校公演は、とても緊張しました。今までとは違い、新たに北島三郎の『まつり』をやるからです。しかも、ボーカルをやることになりました。学園祭では、来客の年齢層が高かったので盛り上がったけれど、果たして大沼小学校公演でもそのようにいくか不安でした。でも自分が一生懸命に歌い、そのことに会場も応えてくれました。大沼小学校公演を通じて、人前で歌う楽しさを味わうことができました。

そして、自分も成長することができたと思うので大変良かったです。



中三 Mくん



招待行事～ソロプチミストXmas会～

福祉専門員 眞中 孝

今年も国際ソロプチミスト函館の皆様が、たくさんのクリスマスプレゼントを持っていらして、クリスマス会を開いて下さいました。歌のプレゼントではクリスマスソングをたくさん歌っていただき、圧倒的な歌唱に驚いている子どもたちの顔と、照れて恥ずかしがりながらも一緒に歌う子どもたちの姿が印象的でした。クリスマスプレゼント争奪のビンゴ大会は毎年恒例で、みんな楽しみにしています。今年は陸上自衛隊函館曹友会の方々が、ゲーム大会とビンゴ大会を行ってくれました。ゲームもビンゴも、陸上自衛隊函館曹友会の方々が楽しく盛り上げてくれて、子どもたちも大はしゃぎで賑やかで楽しい時間を過ごすことが出来ました。今年もいただいたプレゼントは、大切に扱っていました。

毎年工夫を凝らしたクリスマス会を開催していただき、子どもたちにとって大変貴重な機会を与えていただけることに、心よりお礼を申し上げます。



今年も国際ソロプチミスト函館のみなさまのおかげで、楽しいクリスマス会ができました。

今年も自衛隊のみなさまも来てくれて、とてもにぎやかな一日を過ごすことができました。僕が一番楽しかったのは、ビンゴ大会でした。色々な景品をありがとうございました。特に気に入っているのは消しゴムです。勉強をするときに、大切に使っています。

楽しいクリスマス会を開いてくださり、本当にありがとうございました。



小六 Hくん



もちつき

専門主任 西澤 幸裕

年末年始恒例のもちつき大会が終業式の午後に行われました。初めてもちつきを体験するという生徒も多く、杵を持つ姿や餅をこねる姿は最初ぎこちなくも見えましたが、それぞれの先生方から教えられるにつれて、様になってきていました。また、何よりも、子ども達が楽しそうにもちつきの様子を見たり、雑煮や餅を食べている様子は、とても微笑ましかったです。

今回は、実施した時間の関係で、分校の先生の参加が少ない状況でした。来年度は寮の運営体制などが変わることになりますが、同様に開催出来るならば、分校からも沢山参加していただけるよう調整していきたいと思います。

例年もちつきを行うにあたっては、各先生や栄養士さんなど、事前の準備から多大な協力を得て開催に至っています。また、片付けの際にも参加した先生や子ども達全員が手伝っていただくことでスムーズに終わることが出来ています。皆様の協力で子どもたちにとって大変貴重な機会を与えていただき、心からお礼を申し上げます。

自分は初めて、もちつきをしました。とても難しくて、力が必要なので力を入れつつ、もちの真ん中に当てつかなければならぬので、中学生のみんなはすごいと思います。

自分は力が無く、真ん中に当たらないので中学生のように力強く、真ん中に当たるようになりたいです。思った以上に疲れたので、来年は疲れないようにしたいです。

小六 Tくん

僕がもちつき大会で一番思い出に残ったのは、みんなで丸めたもちをまたみんなで食べたことです。やっぱり一人で食べるよりも、みんなで食べる方が美味しいと思ったからです。今回のもちつき大会では、もちをついた数だけ良い事が起きるように願いを込めながらつきました。

ぼくは受験生なので「何度打ちつかれても、くだけないもちのように最後まで粘り強く」という想いも込めました。今年は、去年よりさらに良い年になって欲しいです。

中三 Sくん

百人一首大会

福祉専門員 佐藤 勇介

年が明け、初めての行事として百人一首大会が行われました。

冬帰省から帰ってきたばかりの児童も多く、まだ正月気分が抜けきらないなか、団体戦がスタートしました。すると、それまでとは打って変わり、皆、真剣な表情。新入生など百人一首自体を知らない児童もいる中で、寮生活の中でもこの日のために練習を重ねてきました。試合中、多少劣勢でも最後まで真剣に取り組む姿が素晴らしかったです。

二日目には個人戦を行いました。負けず嫌いな児童も多く心配な面もありましたが、そんな心配とは裏腹に、皆、勝っても負けても楽しくプレーすることが出来ていましたし、決勝戦は、それまでに敗退してしまった児童が周りを取り囲み、一生懸命応援をする姿も見られました。

改めて児童の成長を感じる事ができました。

来年度からは体制が変わるため、今回と同じように大会を行えるかはわかりませんが、今回の子ども達の成長を見ると、規模を縮小するなどの工夫をしてでも継続していく必要のある行事なので無いかと感じました。

僕は学園生活で、二回目の百人一首をやりました。今年も団体戦と個人戦をやりました。どちらも優勝したのは蛍雪寮でしたが、各寮精一杯プレイをしたと思います。

自分は個人戦で、一回戦目は勝つことができましたが二回戦目は負けてしまいました。

自分は三月で退園してしまいますが、来年の百人一首大会でも皆さんは頑張ってもらいたいです。

中三 Kくん

雪像製作～函館大沼雪と氷の祭典～

専門主任 斉藤 孝宏

今年の雪像制作は、バラエティに富んだものになりました。小学生は、アンパンマンやプロレスラーを用いた雪像に、芝蘭寮のシュモクザメ、晩翠寮のダンボーなどです。蛭雪寮は、毎年恒例の電車路線、機関車トーマスのキャラクターで会場の子どもの心を鷲掴みにしてくれました。今年は強烈な寒波が押し寄せ、制作期間中には気温が-10℃を下回る日がありました。その環境の中で、子ども達が、職員と一緒に1週間鼻水を垂らしながら、黙々と作業を頑張っていました。頑張っているだけではなく、楽しそうにやっているなども感じました。雪像を見に来てくださった人たちに、少しでも子ども達の努力が垣間見えていれば、そう思います。これからも地域やコンベンション協会、大沼合同遊船様のご協力のもと、子どもたちと鈴蘭谷分校、大沼学園と一緒に大沼の冬を楽しく彩っていければと思います。



ぼくは雪像作りを、2月4日から8日まで小学4年生全員でアンパンマンの雪像を作りました。作っている時に外国からの観光客が、ぼくたちのアンパンマンを見て喜んでくれました。作って良かったなと思いました。雪と氷の祭典でたくさんの方が来ると思うので、ぼくたちのアンパンマンを色々な方に見てもらいたいです。

豚汁を作ってもらい美味しくいただきました。ありがとうございました。

小四 Kくん

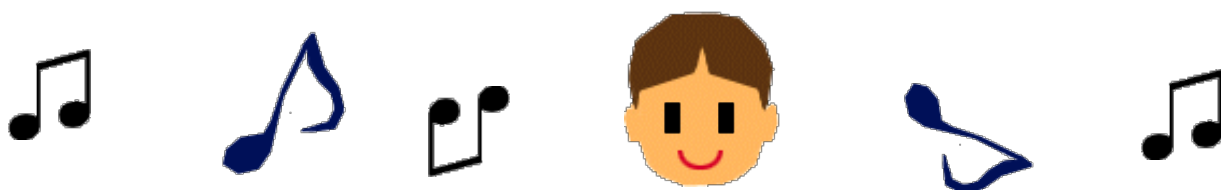
心の里親会激励の集いー函館国際ホテルにてー 福祉専門員 片石 健太

今年も、函館心の里親会、北海道新聞社共催で、中学卒業生激励の会に中学3年生10名を招待していただきました。場所は函館国際ホテルで、洋食のコース料理をいただきながら、円熟したバンド「アドヴァンス」の演奏を聴きました。基本的なテーブルマナーを学んだうえで料理をいただくことになり、子ども達はフォークとナイフの使い方に四苦八苦しながら料理をいただきました。それでも、美味しいと言い笑顔になっている様子を見ると、見ているこちらも嬉しくなりました。その中で、同席した里親会のメンバーの方に、「子ども達を見ているだけで、涙が出てくる。この子達に私たちが行ったことを、大人になったときに誰かに返して行って欲しいと思ってこの活動をしている。」という話をしていただきました。しかし、今は子どもはそのようなことまで頭は働きません。目の前にある美味しい料理を食べることで精一杯です。いつの日か、大人になり、ふとした瞬間に函館のこと、大沼学園のこと、国際ホテルに来たこと、料理を食べたこと、これらを思い出してもらえればと思います。そのときに、少しほっこりした気持ちになったとき、里親会のメンバーの方の話していたことがわかるのかな、そう思います。むしろ、そうなってほしいという希望を持っています。

心の里親会では、僕達中学三年生のためにテーブルマナーや色々準備等を行ってくれた方々には、本当に感謝しております。ギター演奏では他の学園や施設の人々がたくさん来ていて、少し緊張して上手く出来るか不安な想いもありましたが、いざやってみると以外と上手に演奏出来たので本当に良かったです。

今回、僕達のために色々準備をしてくれた方々や地域の皆様には、感謝の気持ちを忘れずに持ち続けて行きたいです。

中三 Sくん



ご寄附食品等

皆様のご厚情に心より感謝申し上げます。

(平成30年11月1日～平成31年2月) *敬称略

七飯大沼国際観光コンベンション協会(七飯町) 佐藤隆三(七飯町) 澄マサノ(函館市)
国際ソロプチミスト函館(函館市) 浜野幸子(函館市) MOA 吉田(森町) 七飯町更正
保護女性会 水嶋(七飯町) セイコーマート(札幌市) コカコーラ社(七飯町) ペシエミ
ニョン(函館市) 大沼観光協会(七飯町) 「子供が大好きな大人たち」の皆様(神戸市)

編集後記

平成最後の年が明けました。いつもの年より厳しかった寒さもその勢いを弱める頃、雪溶けとともに子ども達が旅立ちの春を迎えようとしています。

入園式に緊張しながらうつむいて自己紹介をしていた子ども、作業で上手く竹ぼうきを持ってない子ども、最初から出来ない諦めてしまう子ども、どの子ども前を向くことができるようになり、作業で力強く動くことができ、自ら進んで取り組む姿が見られるようになります。

そのようになれるまでには何度も失敗を重ね、反抗したり、自信を無くしたりとの繰り返しです。そして何度でもその子どもと、私たち職員も学校教員も根気よくつきあいます。なので諦める子どもはいなくなり、自ら進みだしその成長を自然とわかるようになってきます。

自信を持ち、力を付け逞しくなった子ども達とも別れの季節が来ます。嬉しさと寂しさが交差する気持ちの中、精一杯の笑顔で送り出します。

今年の春から、100年以上の歴史持つこの大沼学園の体制が大きく変わります。体制が変わっても子ども達への向き合う姿勢、寄り添う気持ちは変わらずにいたいと思います。

今後とも御指導、応援の程どうぞよろしくお願いいたします。



学 園 の 動 向

平成30年度【11月～2月】

- 11月4日 ・危険物取扱者試験（乙4類：実科生）
- 8日 ・学園祭総練習
 - ・東北北海道地区児童自立支援施設協議会（支援）部会（安藤達専門主任～9日）
- 9日 ・学園祭前日準備
- 10日 ・学園祭
- 12日 ・振替休校
 - ・各寮買い物訓練（函館市）
- 14日 ・学力テスト（中学生）
- 15日 ・支援会議
- 16日 ・退園予後支援
 - （眞中孝福祉専門員、苫小牧市方面、小関久美子専門主任、旭川市方面、～17日）
 - ・七飯町教育委員視察
- 19日 ・食育授業（小学生、中学1年、2年生）
- 20日 ・文化系クラブ大沼小公演（大沼小学校）
 - ・食育授業（中学3年、2組、実科生）
 - ・本庁建設部との打合せ（札幌市、佐藤自立支援課長、伊藤庶務係長出席）
- 21日 ・医診（かとうメンタルクリニック加藤知子副院長）
 - ・職員会議
- 22日 ・避難訓練（火災夜間想定）
- 23日 ・七飯男爵太鼓創作会公演（大沼学園）
- 26日 ・内科検診（インフルエンザ予防接種、1回目）
- 27日 ・財務事務実施検査
 - ・少年関係機関との連絡協議会（函館家庭裁判所、佐藤自立支援課長）
- 28日 ・函館教育大学講義（佐藤自立支援課長）
 - ・道有財産事務研修会（渡島合庁、片井専門主任）
- 29日 ・児童面接（札幌市児相、越後千枝相談三係長、遠藤真梨那児童福祉司、興正学園、秦施設長、鏑木副施設長ほか来園）
 - ・修学旅行（小学6年生、青森県、～30日）
 - ・社会科見学（小学生、函館市内）
 - ・期末テスト（中学生）
- 30日 ・支援打合せ（眞中孝福祉専門員、中央児相）
 - ・期末テスト（中学生）

- 12月1日 ・ソロプチミスト函館クリスマス会
- 2日 ・退園予後支援（斉藤生活指導係長、斉藤淳子専門主任、～3日）
- 3日 ・第2回全児協企画推進委員会（栃木県きぬ川学院、眞中孝福祉専門員、～4日）
- 5日 ・専門里親認定研修会（施設実習、～6日）
 - ・旭川児相との連絡協議会（埴志穂児童福祉司、高松由香児童福祉司来園）
 - ・札幌市児相よりO君入園
- 7日 ・函館児相よりT君入園、室蘭児相よりT君入園
- 10日 ・授業参観日
- 12日 ・職員会議
 - ・室蘭児相との連絡協議会（土田恵美児童福祉司、上田剛和児童福祉司来園）
- 13日 ・支援会議
 - ・第2回連携会議
- 16日 ・理髪
- 17日 ・内科検診（インフルエンザ予防接種2回目）
- 18日 ・施設見学（広島大学：石垣文助教来園）
 - ・大掃除（分校）
 - ・避難訓練（蛍雪寮火災想定）
- 19日 ・医診（かとうメンタルクリニック加藤知子副院長）
- 21日 ・2学期終業式
 - ・餅つき大会
- 25日 ・児童面接（室蘭児相、佐藤自立支援課長、眞中孝福祉専門員）
- 27日 ・冬期一時帰省開始（斉藤孝宏専門主任、小関逸弥専門主任、片石福祉専門員引率、～1/8）
 - ・残留行事（グリーンピア大沼）
- 30日 ・残留行事（レストランケルン）
- 31日 ・残留行事（グリーンピア大沼）

<p>1月3日 ・児童移送（苫小牧市～大國伸夫自立指導係長） ・残留行事（七飯スノーパーク）</p> <p>5日 ・残留行事（シネマ太陽）</p> <p>7日 ・残留行事（七飯スノーパーク）</p> <p>8日 ・冬期一時帰省終了（斉藤孝宏専門主任、小関逸弥専門主任、関口児童自立支援専門員引率）</p> <p>10日 ・百人一首大会（開会式、団体戦）</p> <p>11日 ・百人一首大会（個人戦）</p> <p>16日 ・3学期始業式 ・医診（かとうメンタルクリニック加藤知子副院長）</p> <p>17日 ・期末テスト（中学3年） ・職員会議 ・児童面接（中央児相、白川正一児童福祉司、島田直福祉専門員来園）</p> <p>18日 ・スキー学習1回目（分校～グリーンピア大沼）</p> <p>21日 ・内科検診</p> <p>23日 ・支援会議</p> <p>24日 ・道定期監査</p> <p>25日 ・スキー学習2回目（分校～グリーンピア大沼）</p> <p>27日 ・理髪</p> <p>28日 ・札幌柏葉荘職員施設研修（2名） ・児童養護施設等基幹的職員研修会（前期）（札幌市、斉藤孝宏専門主任、～29日）</p>	<p>2月1日 ・スキー学習3回目（分校～グリーンピア大沼）</p> <p>4日 ・雪像制作開始（大沼公園広場、～8日）</p> <p>5日 ・要保護児童対策地域協議会（佐藤孝幸自立支援課長、安藤達専門主任出席）</p> <p>6日 ・保健福祉部独自研修（～7日） （中央児相、中村拳士福祉指導員来園。北海道保健福祉部松田彰仁主幹引率）</p> <p>8日 ・雪像制作終了</p> <p>11日 ・全児協役員会（大阪市、三浦辰也園長、～13日）</p> <p>13日 ・職員会議</p> <p>17日 ・理髪</p> <p>19日 ・避難訓練（晩翠寮出火想定）</p> <p>20日 ・スノーシューハイク体験（小学生） ・支援会議 ・医診（かとうメンタルクリニック加藤知子副院長）</p> <p>21日 ・期末テスト（中1，2年）</p> <p>22日 ・期末テスト（中1，2年）</p> <p>24日 ・心の里親会激励会（中3生参加、函館国際ホテル）</p> <p>25日 ・内科検診 ・授業参観日 ・児童養護施設等基幹的職員研修会（後期）（札幌市、斉藤孝宏専門主任、～26日）</p> <p>28日 ・要保護児童対策地域協議会（真中孝福祉専門員出席）</p>
---	--

